

第21回 ふれあいまつり ～絆～

テーマは「絆」！
 地域のみなさんとの「ふれあいまつり」
 21回目を迎えた「西の池学園ふれあいまつり」。
 今年も小谷地区の多くのボランティアの皆様を支えられて、
 成功裡に終えることができました。障がいの有無などに関わらず、
 全ての来場者が自由に楽しんでおられる様子から、地域の「絆」
 を感じることが出来ました。
 ふれあいまつり実行委員長 西部 義員



九州北部豪雨災害義援金
 まつり開催中に寄せていただいた
 義援金 19,319 円は、日本赤十字社を
 通じて寄付させていただきました。
 ご協力ありがとうございました。

今年も参加させて頂きました！
 今年は直前の夕立で、「予定通りあるのだろうか？」と心配しましたが、
 なんと、まつりの開始に合わせるかのように雨もあがり、「歌あり・笑いあ
 り・出し物あり」と、例年通り楽しく、素晴らしいおまつりになりました。
 長男が、このおまつりを楽しみにしており、例年参加しておりますが、
 いつも西の池学園と小谷地区とが一緒になったパワーを感じると共に、い
 ろんなことを勉強させて頂いています。
 来年も「今度こそは抽選会で当たり!!」との期待をしながら参加させ
 て頂きます。
 夕風利用者の保護者 Tさん



デイセンターこだま

達成感を味わえる活動を

ふれあいまつりで私は、デイセンターこだまの
 出店「こだまくじ」を担当しました。利用者の皆
 さんには、テントの飾りつけから、くじや景品へ
 番号を記入する準備、まつり当日には接客もして
 頂きました。
 くじに番号を記入する作業では、枚数が多いこ
 ともあり、途中で「なんぼまで作るん・」と質
 問される事がありました。が、「まつりに来た人に
 喜んでもらいましょう」と励ましながら、頑張っ
 て完成させました。すべての準備が終わった時に
 は「やったー！終わった」と笑顔で喜んでおられ
 る姿を見て、利用者さんにも達成感を味わっても
 らえたように思いました。
 普段の活動においても、皆で協力して一つの事
 をやり遂げることの喜びを感じてもらえるよう、
 取り組んでいきたいと思っています。

デイセンターこだま
 支援員 羽原 佑亮



グループホーム

夢を応援します

自分が好きなことを続けるには根気が必
 要です。グループホームで生活している戸坂
 さんは、小学六年生から神楽を好きになり、
 地元の神楽団に加入して、今日まで練習を続
 けておられます。

七月に、グループホームの人たちと連れ立
 って、戸坂さんが加入している神楽団の上演
 を観に行きました。戸坂さんは神楽鈴を演奏
 されており、団の一員として頑張っている姿
 に、皆さん良い刺激を受けました。



そして、戸坂さん
 は、大蛇の中に入っ
 て神楽を舞うこと
 が目標で、それが八
 月十五日にやっ
 と実現しました。「八
 岐大蛇（やまたのお
 ろち）」で記念すべ
 きデビューを迎え、
 今は新たな舞いを
 覚えることに意欲
 を燃やしておられ
 ます。
 これからも、戸坂さんが大好きな神楽を
 続けていけるよう、皆で応援します。

西の池学園グループホーム
 支援員 芝田 治子

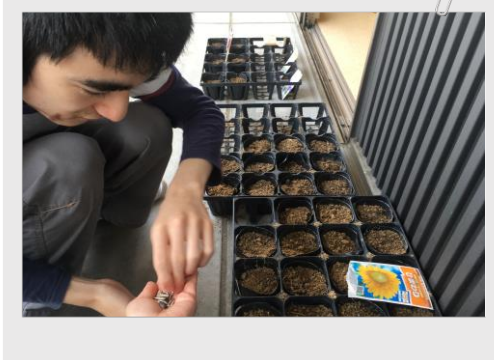
多機能型事業所あさひ

利用者さんの声を大切に

「ひまわり植えようや」Oさ
 んの一言で、今年の夏、あさひ
 の花壇はひまわりでいっぱい
 になりました。

六月、週に一度の園芸活動を
 利用して、利用者さんたちとひ
 まわりの種を植えました。Oさ
 んを中心に、皆さんはりきって
 水やりをしてくださり、七月の
 終わり頃から綺麗なひまわりが
 咲き始めました。

利用者のみなさんからは「咲
 いたね」「綺麗じゃね」と喜びの
 声が上がりました。私も嬉しい気
 持ちでいっぱいになりました。



あさひの生活介護では、こう
 した楽しい活動以外にも、多機
 能型事業所の良さを活かした
 「働く」活動も大切にしていま
 す。
 今後、利用者さんの声に耳
 を傾けながら、個々に合った
 様々な活動を取り入れていき
 たいと思っています。

多機能型事業所あさひ
 支援員 藤岡 里恵



※誌面の写真、名前については、ご本人の
 同意を得て掲載しています。